

# 安全データシート

(SDS : Safety Data Sheet )

最終改訂日 : 2024年5月1日

## 1. 製品及び会社情報

- 製品名 : 油分解バイオ製剤 グリスパックマン
- 会社名 : 日化メンテナンス株式会社
  - 担当部署 : 品質・技術グループ
  - 所在地 : 〒308-8523 茨城県筑西市下江連1250
  - 電話番号 : 0296-26-7039
  - FAX番号 : 0296-26-7039
  - 緊急連絡先 : 0296-28-2734
- 推奨用途及び  
使用上の制限 : 排水中に含まれる油分の分解促進用の微生物剤

## 2. 危険有毒性の概要

- 危険性 : 通常使用条件下では、物理的、化学的危険性はない。
- 有毒性 : 通常使用条件下では、人体への有毒性はない。

## 3. 組成及び成分情報

- 単一成分・混合成分の区別 : 混合成分
- 成分情報

成分名	組成
微生物( <i>Acinetobacter</i> 属 <sup>*1</sup> 、単一菌)	1w/w%未満
食用油	1w/w%未満
無機塩類	1w/w%未満
蒸留水	99w/w%以上
合計	100%

\*1: 遺伝子組替え操作は行っておりません。

---

#### 4. 応急処置

- ・ 吸入した場合 : 特に害は無い。何らかの異常を感じた時は、直ちに医師の診察を受ける。
  - ・ 皮膚に付着した場合 : 直ちに流水でよく洗い流す。何らかの異常を感じた時は、直ちに医師の診察を受ける。
  - ・ 目に入った場合 : 直ちに流水でよく洗い流す。何らかの異常を感じた時は、直ちに医師の診察を受ける。
  - ・ 飲み込んだ場合 : 直ちに吐かせる。吐けない時は水を飲む。何らかの異常を感じた時は、直ちに医師の診察を受ける。
- 

#### 5. 火災時の措置

引火性、発火性はない。

---

#### 6. 漏出時の措置

- ・ 人体に対する注意事項 : 製品が直接人体に触れないようにゴム手袋をして、モップ、雑巾等で拭き取り、下水へ流す。また、濡れた部分は足元が滑りやすくなるので注意すること。
  - ・ 環境に対する注意事項 : 特になし
  - ・ 回収・中和 : 必要なし
- 

#### 7. 取扱い及び保管上の注意

- ・ 取扱い : ①吸入を防ぎ、眼、粘膜、皮膚との接触を避ける。  
②取扱い後、手洗い洗顔等を十分に行い、又、衣服に付着した場合は着替え、衣服は市販の洗剤等で洗う。  
③みだりに漏れ、あふれ、飛散させない。  
④用途以外では使用しないこと。
  - ・ 保管 : ①直射日光を避け、風通しの良い冷暗所に保管する。  
②冬期などの低温になると凍結する可能性があるので必要に応じて保温の処置をする。
-

---

## 8. 暴露防止措置及び保護措置

- ・ 保護具 : 保護手袋及び保護めがねは、付ける事が望ましい。
- 

## 9. 物理及び化学的性質

- ・ 外観 : 白濁色の液体
  - ・ pH : 6.0~7.5
  - ・ 臭気 : 若干の発酵臭
  - ・ 融点、凝固点、沸点、比重、蒸気密度 : 水と同等
  - ・ 引火点、発火点、爆発限界 : なし
- 

## 10. 安定性及び反応性

- ・ 安定性 : 通常の使用条件下では、極めて安定である。
  - ・ 反応性 : 通常の使用条件下では、危険な反応を生じるおそれはない。
  - ・ 避けるべき条件 : 特になし
  - ・ 混触危険物質 : 特になし
- 

## 11. 有害性情報

- ・ 急性毒性 : マウスによる動物試験にて製品の毒性を調査した。検体 200  $\mu$ L をマウスに経口投与した。その結果、48h での異常及び死亡例は見られなかった。また、体重の変化も見られなかった。
  - ・ 皮膚腐食性、刺激性 : 皮膚アレルギーがある場合、手や腕が赤くなる可能性が有る。
  - ・ 目に対する刺激性 : 目の刺激の原因となりうる。使用している微生物に病原性はない。
  - ・ 人体に対する影響 : 本製品は、通常的使用方法において人体に対して何の影響もない。また、本製品に含まれる微生物は、アンピシリン、ストレプトマイシン、カナマイシン、ゲンタマイシン、テトラサイクリン30、クララムフェニコールの6種の抗生物質に対して高い感受性を示す。
-

---

## 1 2. 環境影響情報

- ・ 生態毒性 : データなし
  - ・ 残留性・分解性 : 本製品に含まれる微生物は自然環境中では、徐々に菌数が減少する。また、微生物自体は環境浄化する性質を持つ。
- 

## 1 3. 廃棄上の注意

- ・ 残留廃棄物 : 一般下水道等の排水処理施設へ流すのが望ましい。
  - ・ 容器 : 流水で十分洗浄し、処分する。
- 

## 1 4. 輸送上の注意

運搬に際しては、容器に漏れがないことを確かめた上で、転倒、落下、損傷がないように積込み、荷崩れの防止を確実に行うこと。また、周辺温度が37℃以上若しくは0℃以下となる長時間の運搬は避けること。運搬時の温度は、4～30℃が望ましい。

---

## 1 5. 適用法令

本製品は、PRTR(Pollutant Release and Transfer Register)法、毒物及び劇物取締法、労働安全基準法に対しての規制を受けない。

---

## 1 6. その他情報

このMSDSは、製品の基本的な取り扱いについて作成したものです。すべての化学製品に未知の危険・有害性はある得る為、ご使用の際は、ここに記述した情報を参考にし、十分な注意の上取り扱うようお願いいたします。

---